

2015 年日本地下水学会「若手セミナー」開催報告



日本地下水学会

若手支援・男女共同参画委員会 (YEPS 委員会)

柏谷公希^{※1}・藪崎志穂^{※2}・伊藤浩子^{※3}・野原慎太郎^{※4}・

安元 純^{※5}・吉岡真弓^{※6}・中屋眞司^{※7}

1. はじめに

若手支援・男女共同参画委員会 (YEPS 委員会) では、学生を含む若手研究者の支援活動として、春季、秋季の講演会にあわせて若手セミナーや若手交流会を企画、開催している。本年度の秋季講演会は 2015 年 10 月 22 日から 24 日の期間、福井県大野市の多田記念大野有終会館結とびあを会場として開催され、その中で若手セミナーを開催した。今回の若手セミナーでは、藪崎志穂委員 (福島大学) による趣旨説明の後、当学会の副会長である川端淳一氏 (鹿島建設) と徳永朋祥先生 (東京大学) にご講演いただいた。最後に中屋眞司委員長 (信州大学) による閉会の挨拶で終了した。司会は柏谷公希委員 (京都大学) が務めた。

2. 講演内容の概要

川端氏には「地下水に関する課題の変遷と建設会社での取り組み」というタイトルでご講演いただいた。80年代までは多様なインフラを安全に造ることが建設会社の役割だったのに対して、90年代に入ると、建設会社に求められる技術や工事目的が徐々に変化し、地下水を含む施工構造物周辺の環境維持が求められるようになった。それに伴い、地下水涵養や構造物の地下水通水技術、さらには地下水汚染対策のような技術開発が求められるようになった。講演では、このような建設会社の役割や地下水に関連する課題の変遷に応じて、川端氏が進めてこられた研究や技術開発の事例が、豊富な現場の写真とともに紹介され、建設会社に求められる地下水技術の幅広さや、変化する課題に対応する建設会社の柔軟性と技術力に感銘を受けた。また、川端氏による「地盤の不均質性が地下水や物質移動に与える影響を考慮することの重要性」、「新しい技術はほとんどがニーズに伴い従来の境界領域で生まれる」、「世の中のためになる＝ニーズに答えて研究開発を行う」などの指摘は、不均質性の取扱いや境界領域の現象など時として困難な課題に直面する若手の研究者や技術者を勇気づけるものであると感じた。

徳永先生には「地圏環境システム学の展開」というタイトルでご講演いただいた。講演では、これまで先生が行われてきた研究の成果 (修士研究として行われた付加体の構造地

※1 京都大学
※5 琉球大学

※2 福島大学
※6 産業技術総合研究所

※3 地域 地盤 環境 研究所

※7 信州大学

※4 電力中央研究所

質学，博士研究として行われた油田形成過程の数値モデリングに始まり，兵庫県南部地震による地下水挙動の変化，プレート沈み込みに伴う流体流動，多孔質弾性論に基づく流体挙動，海底湧水や沿岸域の地下水挙動などに関する研究）をレビューいただいた。研究内容に加えて，その時々でどのように考え，感じ，研究を展開してこられたかについてもご紹介いただき，若手の研究者や技術者がキャリアパスを考える上で非常に参考になったのではないだろうか。また，近年では水資源管理における合意形成に必要な情報提供を目的とした研究や，地下の遅い流体流動を対象とした研究も進められているとのことであった。先生の「地質学的な視点と理論的・定量的な手法を統合することで幅広い時空間の現象を取り扱う」という立場は，放射性廃棄物処分などの社会的に大きな問題を扱う上で不可欠であり，今後の地下水学，地圏環境システム学においてさらに重要となるアプローチの一つであると感じた。

3. おわりに

今回の若手セミナーには47名が参加し，盛会であったといえる。参加者は熱心に講演に耳を傾けていたが，その一方で，講演後の質問や議論がやや少なかったのが残念であった。今後の若手セミナーでは，講師の先生方や他の参加者とより近い距離で交流し，議論を深めたり，人脈を広げる場としても役立てられるような企画や雰囲気作りが必要と感じた。最後になりましたが，ご講演をいただいた講師の先生方と参加者の皆様に改めて御礼を申し上げます。



写真 左上) 川端氏による講演
上) 徳永先生による講演
左) 会場全景